

2017.12.17 待降節第三主日

## ヨハネは声、イエスは光

ヨハネによる福音 1:6-8、19-28

神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。

さて、ヨハネの証しはこうである。エルサレムのユダヤ人たちが、祭司やレビ人たちをヨハネのもとへ遣わして、「あなたは、どなたですか」と質問させたとき、彼は公言して隠さず、「わたしはメシアではない」と言い表した。彼らがまた、「では何ですか。あなたはエリヤですか」と尋ねると、ヨハネは、「違う」と言った。更に、「あなたは、あの預言者なのですか」と尋ねると、「そうではない」と答えた。そこで、彼らは言った。「それではいったい、だれなのです。わたしたちを遣わした人々に返事をしなければなりません。あなたは自分を何だと言うのですか。」

ヨハネは、預言者イザヤの言葉を用いて言った。

「わたしは荒野で叫ぶ声である。

『主の道をまっすぐにせよ』と。」

遣わされた人たちはファリサイ派に属していた。彼らがヨハネに尋ねて、「あなたはメシアでも、エリヤでも、またあの預言者でもないのに、なぜ、洗礼を受けるのですか」と言うと、ヨハネは答えた。「わたしは水で洗礼を受けるが、あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。その人はわたしの後から来られる方で、わたしはその履物のひもを解く資格もない。」これは、ヨハネが洗礼を受けていたヨルダン川の向こう側、ベタニアでの出来事であった。

説教

**見よ、わたしは／大いなる恐るべき主の日が来る前に／預言者エリヤをあなたたちに遣わす。彼は父の心を子に／子の心を父に向けさせる。わたしが来て、破滅をもって／この地を撃つことがないように。** マラキ 3:23-24

旧約聖書のさいごはマラキ書です。マラキ書は旧約聖書のなかでは短くて3章となっています。その最後のことばを引用しました。23節で「預言者エリヤをあなたたちに遣わす」とあり、24節で「彼」＝預言者エリヤの役目とは「父の心を子に／子の心を父に向けさせる」ことだと記して旧約聖書は終わります。

きょうの福音は「神から遣わされた一人の人がいた」とはじまり、ヨハネこそこの人のことだと続きます。ヨハネの使命、神から遣わされた目的は光について証するためだとあります。そして光とはイエス・キリストのことです。

**彼は光ではなく、光について証しをするために来た。** ヨハネ 1:8

ユダヤ人はヨハネに三つの質問をぶつけます。

- 1) あなたはメシアか。
- 2) あなたはエリヤか。
- 3) あなたは「あの預言者」か。

メシアとは油注がれた者の意味で、ユダヤ人が待望し、信じている救い主のことです。エリヤは列王記にでてくる偉大な預言者のひとりで、旧約聖書のなかでは天に昇った人間として記録されています。

**彼らが話しながら歩き続けていると、見よ、火の戦車が火の馬に引かれて現れ、二人の間を分けた。エリヤは嵐の中を天に上って行った。** 列王第二 2:11

あの預言者とは申命記 18:15-18 でモーセが十戒につぐ詳細規定を告げたときに預言したモーセに準ずる人のことをさしています。

この三つ問いに対して全部 No.とヨハネは答えます。そしてあなたは何者かという追及に対してこう言いあらわします。

**ヨハネは、預言者イザヤの言葉を用いて言った。「わたしは荒れ野で叫ぶ声である。『主の道をまっすぐにせよ』と。」** ヨハ 1:23

ヨハネは光を証しするために神から派遣されました。そして追及するユダヤ人に対しては自分は「声」だと証言しました。ここに光と声（音）との類比があります。

**初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。創 1:1-5**

創世記で最初に創造された天地は宇宙そのものです。神はまず宇宙を創り、そのあと光（地球に住むわたしたちにとっては太陽）を創りました、それが始めのはじめ、第一の日です。

光、太陽の光は明るいだけでなく暖かい、とくにいまの季節では日の光は暖かくありがたいものです。さらに（あまり実感としては無いのですが）光には速いという性質もあります。

光は速く、音は遅い。（音は秒速約 360 m ですから十分に速いのですがひかりに比べては遅い）

ヨハネは叫ぶ声だと自分のことを証ししているのだから、音の人。そしてヨハネが証言するイエスは光です。イエスは光の人、暖かく、明るく、そして速い。

**神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。ヨハネ 1:6-7**

ヨハネの声、荒野で叫ぶ声、その声を耳をすませて聴くことができれば「信じる」ようになる、と福音は告げています。ヨハネの叫び声を聞き分けることは重要です。

ところで、明日は新月です。夜になると月も隠れ、地球から見る宇宙の光は惑星と恒星だけになります。冬で空気も澄んでいるので晴れていれば夜空の星がきれいに光って見えることでしょう。いままでは星影はなかなか見ること

ができなくなっていました。「荒野で叫ぶ声」を聴き分けることも難しい今の世界で、キリストを待ち望む待降節の新月の日、星の光でできる影、星影が見ることはできるのだろうか、見れるといいなあと切に願います。そこにイエス・キリストの影を見分けることができますように。

-----